

## 人権啓発研究集会に参加して

差別や貧困、人権問題を考える第34回人権啓発研究集会が、2月26、27日の2日間、沖縄県で開かれ、参加させていただきました。

初日の全体会では、琉球大学の島袋純教授が沖縄における基地問題を、同じく同大学の上間陽子教授が、沖縄の若者たちの置かれた厳しい現状について講演されました。

特に若年出産した少女たちの調査に基づいた上間教授の講演は、印象深いものでした。

普通の家庭環境で大事に守られてきた子と、自分自身で生活せざるを得ない子とがいて、沖縄社会の分断があること。

風俗業界で働く少女や若年出産者は、支援施設側から価値観を押し付けられ、精神的に傷ついていること。

そして、「その少女たちの思いをしつかり聞き取らないと本人の生活は変わらない。ニーズを発掘・実現し、生きることにへつなげるよう模索するべき」と指摘されました。

行政や各種支援施設など、本当に必要とされている支援とは何なのかを改めて考えさせられる講演でした。

2日目の分科会では、第1分科会に参加。徳島大学の樋口直人准教授のネット右翼・排外主義者についての講演、ジャーナリストでメディア・アクティビストである津田大介さんからは、ネット上の差別についての

講演を拝聴しました。津田大介さんは、「ネット上では情報技術が進んで、差別扇動が巧妙化し、非常にやりやすくなっている。差別はデマだと広まらぬが、一部が事実だと広まりやすい」と指摘されました。メディアがどこに焦点を当てて報道するかによって受け取る側の印象が異なること、SNS等によって、個人がテレビ並みの影響力を持てる時代になっていることを、映像や各種事例を通して、とてもわかりやすく話されました。現在、新型コロナウイルス関連の



▲平和を願って（沖縄県島尻郡南風原町）

### ※注釈

【ネット右翼】  
 インターネット上で右翼的な言動を展開する人々

【排外主義者】  
 外国人や外国の思想、文物・生活様式などを嫌って退けようとする者

【メディア・アクティビスト】  
 市民運動の活動内容などを記録し、不特定多数の人が見られるように作品を提供する人

フェイクニュースや、在日外国人や隣国に対する誹謗中傷の書き込みなどがネットを席捲しています。国の法規制や大山町における差別禁止の条例制定が、いかに大切かを改めて再認識し、沖縄を後にしました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、手洗いアルコール殺菌、マスク着用などの厳戒態勢で開催された大会でした。政治やメディアが世の中をどれほどコントロールしているのか、自分なりに考え模索し、今後にかかしていきたいと思えます。

（参加者）

